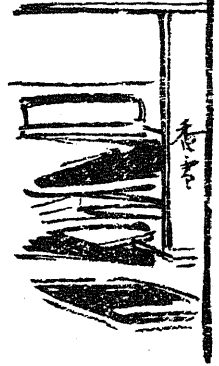




第十卷第十號



歐米女子教育の趨勢

東京高等師範學校教授 齋藤 斐章

(フレイベル會十月常集會に於ける講演の大要)

ゆきよ

今日皆様の御集會に臨みまして、何か彼地の教育上の事を御話するやうにと云ふ御依頼で御座いましたが、もとく私のおちらへ參つたのは、無論教育上の事柄を取調べる爲めでありましたけれども、それは皆様の御研究になつて居られる幼稚園教育とか、女子教育とか云ふ事とは縁遠い方面の事柄を取調べに參つたのでありますから、従つて皆様の御参考になるやうな、十分價値のある御話をする事は出来兼ねるのであります、一度は御辭退致しましたのですが、たつてと云ふ御依頼で御座いましたから、それでは私がおちらに居りまする間に見聞して、感じた事を二三御話致さうと思つたのであります。これと申しましても、歸朝後日も淺く、それに歸りますと直ぐに公務の

方が忙しむ爲めに、主として取調べて來ました事柄の、整理さへもついて居ないやうな有様でありますから、逆も系統のたつた、纏りのある御話をすると云ふことは出來惜いのであります。其の御心算で御聞取りを願ひ度いのであります。

一、獨逸に於ける女子の普通教育

先づ、歐米諸國に於きまして、女子の普通教育が、どう云ふ傾向になつて居るか云ふ點に就いて、少しく御話し度いと思ふのであります。これに就いても御断りして置かねばなりませんのは、歐米各國に於きましても、略ぼ日本と同様に、男子と女子との教育制度が分れて居るのであります。私は其の中で男子の方の教育を取調に參つたのでありますから、主として女子教育と云ふ立場から、之れを取調べたものではないので、たい男子の方の教育を見る爲めに、女子の方を注意した

その事柄を此處で御話しやうと思つてあります。

先づ獨逸に居ました間に見聞した事柄を二三申しますと、獨逸が女子教育と云ふことに注意するやうになりましたのは、極く最近の事實であります。そして其の制度は日本の高等女學校の制度と餘程差があるやうに思はれます、例へて申しますと男子の中學では、ギリシヤ語、ラテン語、英語其の他物理、化學と云ふやうに専門の學校に進む楷梯となるやうな學科を課することになつて居ります。之れに反して高等女學校の方は、ギリシヤ語やラテン語は一切課せないことになつて居て、數學の如きも、男子の中學のやうに高尚なものを課せない、英語、佛語は彼國では、生活上どうしても必要になつて居りますから課しますけれども、これも實用に適するやうに教へるのであります。それから物理化學も、料理法や裁縫を修めるに是非必要な程度に教へて行く、年限も男子の中學は十二年になつて居りますけれども、高等女學校は

十年であります。

要するに獨逸の女子教育の方針と云ふものは、高尚な學問のある女子を造る目的ではなしに、一家の主婦として立派な資格のある良妻賢母を養ふと云ふことにあるのであります。さう云ふ目的からして、高等女學校では、成るべく日常の生活に必要な事柄を教しへて行く、結り婦人の常識を養ふと云ふやうになつて居ります、この點は日本の高等女學校の教育方針と違つて居るのであります。勿論これは中流社會の女子弟が行く學校でありまして、中流以下の一般の子弟は六歳から八ヶ年間普通の小學教育を受けることになつて居ります。小學校の課目は男女とも英語も佛語も課せないことになつて居ります。

二、獨逸に於ける男女共學

問題

次に、近來教育上の問題になつて居る男女共學

と云ふ事に就いて、獨逸の教育家は一般にどう云ふ意見を持つて居るかと申しますと、一般に男女共學はいけないと云ふ論者が多いのであります。何故男女共學がいけないかと云ふと、男子と女子とは互に異つた性質を持つて居る。其の一端を申しますと、男は粗暴で女は柔和である、女は中にあつて家事に勉め、男は外に出て働くこと云ふやうに其の性質なり職分なりが根本に於いて違つて居るのでありますから、それに施す教育も自ら異つていかなければならない、其の兩者の職能に適はしい教育を施して、そして社會の必要に伴つて行かなければならないと云ふことにあるのであります、小學校も初の四ヶ年は男女を一緒にしてありますけれども、それから上は二つに分けてあるのです。

私が彼國の教育會へ參つた折りに、此の男女共學の可否と云ふことが問題になつた事がありました、其の時にも多くの教育家は共學がいけないと

云ふ人でありました。然し男女共學がいけないと云つても、昔のやうに女は男のやうな働きをする能力のないものであるとか、女は先天的に男の下に付くべきものであるからと云ふのではないのでありまして、前に申したやうに、其の兩者の性質なり天分なりが違つて居るのであるから、各其の長所を發揮するやうに努めねばならないと云ふのであります、世の中には女であつて、男のするやうな仕事に長じた天分を持つて居らるゝ方も少くはなく、また男であつて女のするやうな仕事に適した性質の人と決して少くはないのであります。例へば學者であるとか發明家であると云ふやうな天才も女子の中にも相應に多いのであります。故にさう云ふ人々の爲めには、其の天分を發揮する事の出来る道を開いて置く。其の爲めに十年の高等女學校を卒業致しますと其の上に専攻科と云ふものがあつて、其處で大學に入る準備の教育を受けるのであります、其處を卒業しますと、其の學

四
校の校長が大學入學の資格試験を行つて、それに合格した者は自由に大學へ進むことが出来るのであります。此の點は男子の中學と同様である尤も女子の入學し得る大學は全體の三分の一位でありまして、何の大學へでも入學が出来ると云ふ譯ではないのであります、兎に角、さう云ふ特殊な性能を持つて居られる女子にはさう云ふ道も開けて居るのであります。今日でも女子の入學し得る大學へ行つて見ますと女子の生徒が十分の一は居るのであります。

それから美術學校へ行きましても、クンスト即ち繪を畫くとか細工をするとか云ふ方では、矢張り男女共學を許して居ります、其の他の専門學校も同様であります。

三、男女共學の餘弊

これは男女共學そのものに伴ふ弊ではありませぬけれども、同國の或る大學教授が指摘した一の

餘弊よへいがあります。それは彼の地の大學だいがくでは大學だいがくとしてしての制服制帽せいふくせいぼうは定められてないのでありまして生徒せいとは自分じぶん々々の出身しゅっしんで團體だんたいを造つて、其そのの團體だんたいが自ら制服制帽せいふくせいぼうを一定ていして濶歩くわつぽするのであります。ですからさう云ふ團體だんたいが一いっの學校がくかうに幾いくつもある譯わけでその團體だんたいが各自各自の會くわいを造つて、ビールを呑むとか、いろ／＼な運動うんどうをするとか云ふやうになつて居る女をんなも此このの中なかへ入はいつて男をとこと一緒にしよさう云ふことをするのであります。これが教育上けいいくじやうどうかと云ふことが、百年祭ひゃんねんさいのあつた時に、ある雜誌ざっしに其意見そのいけんが發表はつぷされて居たのであります。

四、英佛の男女共學

佛蘭西ふらんすではどう云ふ風ふうになつて居るかと申まをしますと、私はバリーわだかしに滞在たざいしましたのは僅わずかの日數にちすうでありましたから、總すべてがさう云ふ風ふうになつて居るかどうかは斷言だんげん出來できませぬけれども、私わたくしの見みた處ところだけでは、矢張り男子だんしと女子ぢよしとが分わかれて居をりま

して、小學校せうがくも男子部だんしぶ、女子部ぢよしぶと幼稚園えいごえんと分わかれて居る、どうも斯いう云ふ制せいになつて居る方が多いやうに見受みうけられました。

英國えいこくも矢張り同様の制せいになつて居るやうで私わたくしは英國えいこくでは主にイートンや、ハローのやうな學校がくかうを見る爲ためめに、多く田舎いなかに居をりました爲ために、倫敦ロンドンに止とどまりましたのは僅わずかに卅日にちじに過ぎなかつたですからも、無論一般むろんいぱんに就ついて云ふ譯わけにもゆかないけれども、私わたくしの見みた處ところでは、男女だんぢよの學校がくかうが分わかれて居をたのであります。

五、米國の男女共學

米國べいこくは一番いっぱん男女だんぢよの區別くわくべつをつけない國くにであります然しかし米國べいこくでも總すべての學校がくかうがさうかと申まをしますと、中なかには小學校せうがくから、もう分わかけてある處ところがあります。又また、中等學校ちゆうじゆうがくになつて分わかける處ところもあつたのであります。

然しかし一般いぱんに云いひますと、男女共學だんぢよきやうがくは米國べいこくが一番いっぱん

多いのであります。それが日本へ入つて来て、一時は日本にも共學論が盛んになつたのであります。然し私がボストンへ行つた時に、文部省に行つていろいろ話をして、男女共學はどうかと聞きますと、今それが問題になつて居るのであると答へたのであります。斯う云ふ事實に就いて考へますと、どうも米國ですらも、男女共學が段々變つて行くのでなからうかと思はれるのであります。

それに米國の男女が一緒に授業して居る處を見ますと、どうも歐洲大陸に居て見たやうに、眞面目ではなかつたやうに見受けたのであります。これは日本の心で見ても、さう感じたままで彼の國の感情から云へば、決して悪い事ではないのであるかも知れませぬが、兎に角諸外國のそれと比べて嚴肅の氣分が缺けて居るやうに思はれ、中には授業中にふざけて居る生徒すらもあつたのです。而も授業上に於きましても、女の勢力が男よりも多いので、質問をして男の方が恥かしさうに、や

つと質問をすると云ふやうに、總の點で男が女に壓せられて居る傾があつたやうに思はれました。これは私が男子の方を見に參つた間に氣附いた點であります。高等女學校へ行ましても、ズキズキ亂暴な事が行はれて居るやうであります。こゝでは立派な御嬢さまで、放課後は廊下でズンズン立食をして居る。尤もあちらでは朝は食事をせないので、持つて行つて學校で食事をするやうになつて居ますから、日本の人が考へる程に悪いことではないのであります。これが日本にしますと少くとも食堂位は一定して、其處で一緒に食事をすると云ふやうな事が至當であらうと思はれます。すのにあらでは、廊下に立ちながら食つて居るやうな状態であります。

六、瑞典に於ける體育教育

瑞典へ行きまして、ストックホルムの學校を少し見ました。其處では手工、體操が非常に進んで

居まして、女子の體格が餘程優れて居ります。小學校でも、別々に別けてあるけれども、男子と同様な運動をして居ります爲めか、體格が非常によいのであります。例へば股引のやうなものをはいて、鐵棒や梯を渡るといふことは普通でありますこれも日本から云ひますと、少しをかしいと思はれますが、あちらでは、男でも女でも體育は同様に必要であると云ふ考へから來て居るのであります。

其の他常識にかけても、女の方が遙に進んで居るやうに思はれます。道を尋ねましても、男は解りが悪いけれども、女はすん／＼教へて呉れる。語學にすぐれて居ることは殊に著しくあります。パリへ來ましても、随分瑞典の女が來て、それぞれ仕事をして居るのであります。

斯う云ふ教育の仕方を、どう云ふ點まで、日本が真似てよろしいかと云ふことは、皆様の御判断に任せて置き度いと思ひます。

七、獨逸の家庭

これで學制の一斑は申上げましたから、次に彼の地の家庭の有様に就いて少しく御話し度いと思ひます。これも廣く見た事ではないので、其の一斑に過ぎないのでありますから一般がさうであるとは決して申しませぬ、世間には外國から歸朝された人の御話を聞いて、今度自分が行つて見ますと、これ迄聞いた事と、實際に自分の見た處とは非常に違つて居たと云ふ事は往々ある事であります。實際私もさう云ふ感じを抱いた一人であります、然しこれはどちらに罪があると云ふ譯ではないので、人は自分の見た一部分だけを語るからであります。

先づ獨逸に就いて申しますと、獨逸では一族の中にあつてすらも、個人主義が大變重んじられて居るのであります。これは一方から申しますと非常によいことで、詰り他人に倚らない、自分の

事は飽く迄自分ですると云ふ獨立心や、貧富の差は自分自身の働きた次第にあると云ふやうな事を子供の時分から養つて行くのであります。それであるから日本のやうに、一も二も父兄に倚ると云ふ依頼心が起らない、従つて父兄の不親切を恨むと云ふやうな事がない。これが個人主義の長所であります。

私の一友人が下宿をして居ました家に五十餘りの寡婦が居まして、廿四になる娘と、男の子が一人居たのであります。其の娘が非常に精巧で、帽子會社へ勤めて月に百マルクの収入があつた。ベルリンでは生存競争が激いのですから、中流以下で百マルクも取ると、随分善い給料なのです。其の中で五十瑪は食料として家へ入れる。詰りお母さんは娘を下宿させて置くのであります。で、娘の爲めに下宿人としてこの設備を立派にして置く、然しお母さん自身は貧しいから、臺所の隅に寢臺を置いて、其處がお母さんの居室であります

それでさへも娘は取扱上に随分不足を云ふ。お母さんは、又それな理由でこれに反對すると云ふやうな事が行はれて居る。これ等は日本から云ふと非常な親不孝になるのですが、あちらでは何とも思つて居ない、尙其の上に食物でさへも、お母さんは収入がないから娘の残りを食べると云ふやうになつて居ります。そして娘は残りの金を結婚の用意として、貯金をするのであります。中以下の娘はさう云ふ風に自活をして、二千瑪も入る結婚費を造るのであります。故に上流の家庭であるとか、遺産のある家の外は、此の金が出来ない内は結婚をせないのです、さう云ふ娘は高等女學校に居る内から、卒業後何をして其の金を蓄めやうかと云ふ事に腐心するのであります。

此の家庭は少しく極端であらうと思はれますけれども、大體は皆高等女學校を卒業して職をとると、其の収入の中で幾らか入れるので、其の内に差はあつても略ぼ同様であります。そして、大抵

は十年位蓄めてヤツと其の金を造るのですから、十六に高等女學校を卒業しますと、廿六にならなければ結婚が出来ない。それも悪くゆくと廿年も掛るさうで、四十近くになつて漸く結婚の準備が出来来る娘もあるさうです。これは男でも同様で、大學へ行つて居る人は、普通に中等以上の子弟であります、其れ以下は皆同様の自活をして居るのであります。

これは各獨立して自分の事をやると云ふ上には非常によい事で、個人主義の長所と観ることが出来ますけれども、然しそれと同時に吾々から見て非常によくないことも含まれて居るのであります。英國の個人主義は獨逸程に激しくはありません。英國では一の家族全體を一の個人として居ります。獨逸の一人々々を單位として居るのに比べて非常に相違であります。

八、日本の家族制度の長短所

私が向に居てさう云ふ家族制度に接しました時に、日本の家族制度の長所を想起して、どうか其の長所を歐洲文明の爲めに破られないやうにしたいものであると望んだのであります。日本の家庭と歐洲の家庭とを比べますと、其の間に非常に差があります。そして長所はどちらにもあると共に短所もあるのですから、彼地の長所を取り入れて行くと云ふことは、勿論よい事でありませうけれども、其の爲めに、自分の方の長所までも破ると云ふやうな事があつてはならないと思ひます。

日本の家族制度の弊害は、歐洲と反對で、依頼心が多過ぎる事があります。故に各自が奮勉努力すると云ふ心掛けない。その最も甚しいのは朝鮮であります。私の友人で朝鮮の學校に居る人が、朝鮮の教育上に非常に熱心な方でありまして、朝鮮を同化するには、どうしても朝鮮の女子と結婚する事が必要であると思ふから、先づ自分自ら朝鮮の女と結婚する事に決したと云ふ音

信があつたので、私も非常にいゝことだと思つて居ました。すると後になつてそれを止す事にしたと云つて、其の理由には、朝鮮では自分の娘が他家へ嫁すると、其の娘も親も兄弟も伯父さんも一家揃つて、夫の家へついて来る、そして悉く遊んで、食ふと云ふ習慣になつて居るから、逆も見込がないと云ふのであります。これは最も極端でありますけれども、少しでもさう云ふ依頼心があると、それが家庭を破る基となるのです。

ベルリン大學の教授をして居られる辻様にあらで御目に掛つた時にも、家庭制度の話が出まして、先生の言はれるには、日本の家庭ではどうも兄に生れた人は十分の發達をする事が出来ない。自分には十分發達する才能もあれば、望もあるけれども、親に代つて子弟を教育せねばならぬ。その爲めに兄の方が才能が餘けいにあると思ふ場合でも、見す／＼其れを犠牲にして、弟を教育せなければならぬ場合が多いと云つて居られました。

たが、誠にこれは日本の家族制度の大なる弊害の一人であります。兄の方が出来れば、弟の方は多少疎にして、兄を十分に發達せしめる方が、人物經濟の上から云ひましても、餘程利益であらうと思はれます。

もう一ツの弊は、年寄りであります。日本人は五十にもなると、もう隠居さんだと云つて、する事もなく遊んで居るのが普通であります。和田垣博士が或る學校で經濟の講義をせられた時に、日本の發達出来ないのは、食客が多いからである、日本の食客とは何んであると申しますと、年寄と子供であると言はれたさうで、それにも幾分の理はあると思はれます。

九、どうしたら此の弊が

除けるか

では、斯う云ふ弊害を日本の家庭から除いて、十分に獨立心を養ふには、子供にどう云ふ教育を

施して行けばよろしいかと云ふ事は餘程困難な問題であらうと思はれます。子供に年がいつてからの獨立心を養はうとする爲めに、親は死ぬ迄働かねばならぬものだと思へたとしますと、今度其の子供が成長して結婚しました時に、教へられた儘の考へから、其の舅や姑を粗末にすると云ふ場合がないとも云へないのであります。

それから日本の姑が嫁に對する態度にも、随分と嫌らぬ點があるやうに思はれますけれども、此の間の教訓は子供の時には出來憎いものであります、これ等の點をどうして改めて行くかと云ふことは、十分考へて見る必要があると思ひます。今申した事は皆日本の家族制度に伴ふ弊であります、然しそれと共に、一方に捨て難い美點も、なかくに多いのでありますから、それ等を失はないで、其の悪い方面を改めて行くには、どうすればよいかと云ふ事が、殊に女子教育の上に大切な問題であらうと思はれます。

一〇、獨逸と英國の家族制度

の得失

曩にも申したやうに、獨逸の個人主義は、最も極端に個人を本位とするに對して、英國は一家族を本位として居ります。然し利害はどちらにも伴ふのです。

獨逸は個人本位でありますから一方から云ふと、下宿をするにしても非常に樂であります。間を借りると其の一室は、借りた人の占有になつて決して他人は入れない。であるから用事がなければ三日でも四日でも他人と會はないで居れます。英國ではさうはいかない。倫敦では間貸しと云ふのはなくて、食事と一緒にせなければならぬ。そして間は寢室だけを貸すので、而も其の寢室が家に比べて非常に貧しい、少しの裝飾も施してないばかりではなく、餘りに無雑作なのに、居るのも不快な程であります。何故さう云ふ風にしてあ

るかと申しますと、夕食が済んで寝る時にだけ其の室へ入るのであります。ベルリンでは室全體を貸すのですから、設備も十分に行き届いて居る。

英國はこれに反對で、寢臺は穢いけれども、その代りに食堂や主人の居る間が非常に立派に飾つてある、何故さう云ふ風にするかと云ひますと、食事の時間が來ると家内の者も下宿人も一緒に食堂へ集つて、いろいろな話をしながら夕食を終えるすると今度は主人の室へ行つて、一緒に面白く遊ぶ、其處にはピアノやヴァイオリンなどの設備も出來て居ります、詰り下宿人は其處へ伺つて御挨拶をして、子供にもいろいろな話を聞かせるかうして十時頃迄も遊んで、それから自分の寢室へ引き下ると云ふ風になつて居るのであります。私も最初はベルリンと同様のやうに心得て夕食後は直ぐに寢室へ入つて、不快なのを忍んで居りますと、同宿の獨逸人がこれを注意して呉れたので、次に其の室へ行つて見ますと、成る程、食

二二
堂よりも、もつと應接間の方が綺麗で、面白い。そして皆が集つて話をしますから従つて語學を覺える機會も澤山にあります。これは倫敦でも、下宿人を置く位ですから無論中以下の家庭であります、其れ以上の家庭は知る事は出來ませず、又同じ中流でも家庭に依つて、幾分の相違はありますけれども、一般に斯ういふ傾があつたやうです。此の獨逸と英國との家庭を比較しますと勉強をするには獨逸の方が都合がよく、家族制度としては倫敦の方が面白と思ひます、詰り人として教育を受けるには倫敦の方が遙に優つて居ります。若し子供を一人獨逸のやうな家庭に下宿させて置きましたならば、どんな風になるか知れないのであります。

一一、英國の女は獨逸よりも

高尚である

人としても、英國の方が獨逸に比べて、ズツと

高尚であります。下宿のお内儀さんと申しましたもそれには、もつたいない位に立派なレデーで、娘でも立派なお嬢さんであります。獨逸ではさうは行きませぬ。表面のお世辭は上手で、チヨツと道を聞いても、汽車に乗つて居ても非常に人づきがいので、獨逸から英國へ行きますと、初めは非常に不快な感じをする程に違つて居ります。然し場合によると、貴方の月収が幾らで、着物が幾ら掛つたかと云ふやうな事迄も、ともすると問ひ兼ねない、英國ではこれがないのであります言葉でも非常に綺麗で、總てに品格が高いのです。殊に私の居た家のお内儀さんは、私等の發音を正して呉れる。そして自分は極く正しい發音をして居る、處が獨逸では斯う云ふ事は逆も望まれません。

斯う云ふ風に、獨逸は獨逸、英國は英國だけにそれ／＼長所を持つて居るのであります。吾々日本人が此の兩者のどう云ふ點を學ばねばならぬか

と云ふ事は、皆様のお考に任せて置くことに致します。

一、獨逸に於ける女子職業學校

最後に申して置きたいと思ふのは、女子の職業教育に就いての獨逸の有様であります。彼の地で此の教育が非常に發達して居るのであります。日本では一通りの常識さへ授ければ、もう普通教育の任は終つたもの、やうに考へられて居りますけれども、獨逸では小學校を卒へて、更に一通の職業教育を受けなければ、普通教育が終らないのであります。先づ一年或は二年の工業學校があつて、一年の方を出た者は普通の職工になり、二年の方を出た者はマスターになる資格があつて、其の上は専門學校と云ふやうになつて居ります。若し此の種の學校に入る事が出来ない子弟は、小學校卒業後、一年の補習教育を受ける義務があります。此の學校は一週間に三日授業をする。小學校を卒業すると女は賣子、男は大工と云ふやう

に、それ／＼職に就きますから、其の間に一週間六時間だけ、義務として學校へ出す。此處では手紙を書いたり算術を習つたりすると共に、職業の教育も受けるのです。女はタイプライターであるとか、速記であるとか云ふやうなものであります。小學校を卒業して職に就く時に、先づ此の時間を見積つて就職の契約をする。そして此の學校を卒業すると直ぐに普通の人と同様に職に就くのです。これをせないと普通教育が終らないのであります。高等女學校を出た者でも、大學へ行ける人は別として、其の他は別に一年の補習教育を受けるのが普通であります。

要するに、斯う云ふ風にして、努めて子弟に自活の道を立て、やると共に、成るべく、遊ぶ時間を餘分に與へないやうにする。さうすれば従つて善くない事を覺える機會も少くなる譯であります。これ等も日本の教育の上に、幾分考へを及ぼす必要があらうと思ふのであります。

大變纏りのないお話を長時間を費しましたが、これで今日の講演を終へやうと思ひます。

(文責在記者)

感情の發表

佐賀縣師範學校長

川島庄一郎

本誌の前號は特に有益に且つ面白く拜見せられました。其の中に一つ「これは大問題ではなからうか」と思はれた事がありますから、例の兀々した筆で一吋投書して諸君と共に研究して見たいと思ひます。

最初の菅原君の御議論と最後の倉橋君の御意見とは誠に面白いコントラストかと考へます。菅原君は感情をありのまゝに發表するがよいといふ御意見、倉橋君は實際上感情の發表を抑へねばならぬ事を暗示せられて居る様に讀まれましたが、果してそれでよろしいのでせうか。

感情は正直に發表すべきものか、さすべきものか、將た寧ろ抑へべきものかといふ事に就ては實は少々迷うて居るのでございまして、多年思を潜めて居ますけれど尙ほハッキリと解決しかねて居